

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

ロータリーで良いことをしよう

高田ロータリー
今年のスローガン

変化を楽しもう



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度

国際ロータリー会長 **ホルガー・クナーク**
2560地区ガバナー **佐藤 真**
高田ロータリー会長 **大島 誠**
幹事 **伴 長門**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025)526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員会：
齋藤 尚明・飯塚 宏佳・佐藤 信・齋藤 俊幸

第37回例会 5月21日(金)

No.35

会長挨拶 ●大島 誠



皆さんこんにちは。お元気でしょうか？

上越市でも新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。テレビのワイドショーなどで「上越方式」と言われる「あらかじめ予防接種の日時と会場を指定して伝える」予約方式が混乱を生むことなく接種が行われていると評価されているようです。既に1回目の接種をされた方もおられるようですが、1日も早く必要な方への接種が完了するように希望いたします。

さて、今年は冬の記録的な豪雪に続き、梅雨入りが異常に早いようです。九州から東海地方にかけては、5月15日頃梅雨入りしたとみられ、平年より3週間も早いようです。その理由を調べてみました。(パワーポイント資料)

梅雨前線は太平洋高気圧とオホーツク海高気圧のぶつかったところで発生します。そして、夏に向けて太平洋高気圧の勢力が強くなるにしたがって梅雨前線が上昇し、本州を抜けたあたりで梅雨前線が消え、梅雨明けとなります。ところが、今年はずっと南のインド洋の海水温が高く、偏西風が日本上空で北に蛇行しています。そのせいで、平年よりも太平洋高気圧の張り出しが早く、梅雨前線が3週間も早く発生したという事です。ちなみに、梅雨入りが早いからと言って梅雨明けも早いとは限らず、もしかしたら今年の梅雨は長くなるかもしれません。北陸地方の梅雨入りは平年は6月11日頃、梅雨明けは7月23日頃となっています。

さて、「変化を楽しもう」のテーマのもと進めて来ました本年度の例会も残すところあと6回となりました。その中で、講師をお招きしての卓話は本日を含め2回です。

本日は高田RCで初めての試みですがWEBによる卓話を実施します。吉原委員長を始めとするプログラム委員会の皆様、ご準備有難うございました。本日のWEB卓話が上手くいきましたら、次年度以降の卓話の幅も大いに広がると思います。トラブルが有りましたもお許しを頂きたいと思ひます。



出席報告

96.43%

メイクアップ

大谷光夫君・中田 正君・箕輪賢一君・飯塚宏佳君・高坂光一君・高橋正彦君・大島 誠君・山田 守君・齋藤尚明君・橋詰敏一君・原野聖子君・長谷川優太君・石黒孝良君・吉田 巧君（5/22 2021-22 年度地区研修・協議会）

セレモニー

2019-20 年度ガバナー賞表彰

会員増強表彰個人表彰：高坂光一君

ロータリー財団寄付個人表彰：三井慶昭君



委員会報告

箕輪次期幹事 5/222021-22 年度地区研修・協議会
について

高田さくらロータリー衛星クラブ 次年度三役の
ご報告



ゴルフ同好会 今年度の活動予定のご案内

幹事報告

配布物：週報No.35

6月の例会プログラム

例会日	プログラム	会場
6月4日	卓話者・演題 未定	デュオ・セレッソ
6月11日	クラブ協議会	デュオ・セレッソ
6月18日	クラブ協議会	デュオ・セレッソ
6月25日	最終例会	デュオ・セレッソ

卓話

妙高から「体験の風をおこそう」

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
主幹 友松 由実 様



国立青少年教育振興機構は、全国に 28 の教育施設を有しており、海、山、川等それぞれの立地を活かした特色のある活動を展開しています。これらの施設では、これからの社会を生き抜く力を育てるために必要な自然体験活動、集団宿泊活動をはじめ、多様な体験活動の機会と場を提供し、毎年、約 500 万人の方にご利用いただいています。

ここ、国立妙高青少年自然の家は、小中学生を中心に、毎年、約 13 万人の方にご利用いただいております。それぞれの団体の目的に応じて、森探検や源流探検、野外炊事など多様な活動プログラムを提供しています。

当機構の調査では、自然の中での遊びや自然観察、地域の中での社会体験や家庭でのお手伝いなど、子供の頃のような体験が、大人になった時の意欲やコミュニケーション力の差となって表れることが明らかになってきました。子供たちの成長にとって、体験がいかに大切であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で子供たちに体験活動の機会を提供し、健やかな子供の成長を支援するために、青少年団体や地域と連携し、「体験の風をおこそう」運動を推進しています。（→ <https://taikennokaze.jp/about>）

国立妙高青少年自然の家は、今年度 30 周年を迎えます。これからも、地域の皆様に愛される施設でありたいと考えています。引き続き、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。